

# 東日本大震災復興支援

# 10年の歩み



東日本大震災復興支援10年の歩みをWebでもご覧いただけます。  
(22年3月上旬公開)



みなさんの  
あたたかい気持ちが  
前を向く力に  
繋がってきた  
10年でした



## 現地からのメッセージ

### 10年間を振り返って



岩手県大船渡市  
山口ボランティアグループ 金野 千代子さん

2011年3月11日、あの日から早10年が過ぎました。未曾有の大災害に、今まで営々と築いてきた生活圏を失い、明日を考えることができませんでした。そのような中、被災地への限りない支援に大きな生きる勇気をいただきながら、ともに支え合い、困難を乗り越えなければとの思いで今日まで頑張ってきました。

現在、住居は高台へ移転し安心の反面、赤崎地区の街は寂れてしまいました。命を守るための高台移転ではありますが、「元通りにはならない」「生まれ育ったところで暮らせない」といった思いを抱えている方もいます。

コープあいちのみなさまからの10年にも渡るご支援に対する思いは多々ありますが、被災直後のひつまぶしの支援に始まり、布団やみかんの支援、さんま祭りへの支援などたくさんの思い出があります。みかんの支援では、山口地域の全戸に配布するため、100軒近くを訪問したことを覚えています。今でもお花・お線香代とお菓子をお送りいただくなど、数限りなくご支援をいただきました。お礼を申し上げます。

今までみなさまから、私たちは多くのことを学ばせていただきました。生協の「協同の心」を、私たちも心に刻み、これからは助けを必要とする人々に支援の手を差し伸べる思いです。

コロナ禍が終わりましたら、またぜひ東北へお出かけください。10年経過した様子を見てください。皆でお待ちしております。

## 今につながる思い

コープあいち組合員 祖父江 裕子さん



震災6か月後の現地を目の当たりにして、何かできることはないかという思いと目で見て心で感じたことは今でも私の中にあります。そして、災害弱者と言われる方たちが今どうしていらっしゃるのかということが今でも気になっています。

これからのことを考えると、私たちには見守ることしかできないかもしれませんが、現地との絆はつなぎとめておきたいと思っています。

今後に向けては、災害を自分のこととして捉えて情報は自分で集めて備える、災害が起きたとき私たち組合員がどのようにつながって行動していくかを考えることが大切だと感じています。そして、物の売り買いだけではなく、生活全般に寄り添える生協であってほしいと思います。

東海コープ事業連合 松浦 基晴さん



2011年から2020年2月まで44回・延べ200名の職員でボランティアに参加しました。2012年からの35回は南相馬市です。当初はカラスとボランティアしかいないといわれるほど閑散としていましたが、4年後にはコンビニがオープン。その後お店や住民が増えました。が、2020年で戻った住民は震災前の6割弱です。復興は進みましたが、ボランティアにうかがった方々の声からはまだ途上を感じます。



# 力を合わせて 心を合わせて 一歩ずつ



## 発災直後の支援活動

### 「困ったときはおたがいさま」 助け合いの思いで動き出した組合員

コープあいち、発災翌日から日本生協連を通じて支援物資をお届けしたほか、現地へ職員を派遣し、支援活動にあたりました。

発災直後から呼びかけた募金は、組合員が店頭で呼びかけることもあり、10年間で1億9000万円を超える募金が寄せられました。

寄せられた募金は、義援金として送金したほか、被災地(者)への支援活動や、震災支援団体がすすめる広範な取り組み、広域避難されている方への支援に活用されています。

また、テーマグループや地域委員会によって、支援バザーや現地との交流、物資のお届けなど継続的に続けられています。



組合員とともに育んできた被災地との絆を記した「タオルの絆」(発刊2015年)こちらの本を、みなさんに進呈します。

●問い合わせ先：組合員活動支援部  
☎052-703-6055 (月～金 10時～17時)



詳しくはwebサイトをご覧ください。  
QRコード

## 被災地への思いを紡ぐ

いわて生協の呼びかけに応じて、組合員から集まったタオルは2週間で23万本。

その多くは「あきらめないください」「ひとりじゃないよ」といった被災者への励ましとともに寄せられました。

また、組合員手作りのひなまつり・七夕・クリスマスカードを1万枚以上、いわて生協を通じてお届け。

受け取った方々がお互いにカードを見せ合ってニコニコ眺めている、そんな光景も見られたようです。「タオルやカードを贈る取り組みが一番印象的だね」と話す組合員も多く、タオルやカードが被災地への思いを紡いでくれました。



## 今につながる思い

守山センター 伊藤 勝久さん



陸前高田での被災から仮設住宅に閉じこもりのおばあちゃんが、タオルのお届けがきっかけで顔を出していただき、タオルと手紙を見てぼつと「ありがとね」と言われました。

タオルで組合員の心、被災された方の心が温かくつながったと嬉しく感じました。

タオルの取り組みから、「どんな時でも助け合い、手を携える心が今の生協の基本」だと学びました。困っているときに、組合員の思いに気づく・大切に力を培って生かしていくことが大切だと思っています。

## タオルの絆から広がった被災地との交流

タオルで紡いだ絆は、「現地を見て・聞いて・交流して学ぶ、感じる」取り組みにつながっています。

2011年当時のセンター長・店長が研修の一端で被災地に訪れたほか、組合員が被災地を訪問するツアーや福島みらい企画を実施。

訪問した仮設住宅では、被災者と一緒に歌って踊って交流し、心が通い合う時間となりました。

赤崎地区の町民運動会や大船渡の「盛町灯ろう七夕まつり」・陸前高田の「うごく七夕まつり」には、組合員も参加して、元気と笑顔を直接届けることができました。

また、組合員から寄せられた募金を活用して、気仙地域でのコミュニティづくりや地域活動の支援を実施しました。募金により新設した赤崎町山口地区の公民館倉庫にはコープあいちの看板を設置していただき今も活用されています。

こうした交流でつながった現地の方と組合員は、今でも交流が続いており、継続した支援活動にもなっています。



## 今につながる思い

豊橋センター長 竹内 彰さん



震災当時、いわて生協へ支援タオルを持って訪問をさせていただきました。「生協の職員です。愛知県から来ました。」と伝えると、組合員のみなさんに「わざわざ遠くからありがとう。疲れたでしょう。」と労いの言葉をかけていただいたのを覚えています。被災されて辛いはずなのに「生協」という一言で、心がつながり温かい気持ちになりました。そのことが今でも生協を広げる原動力になっています。

コープとよあけ店長 久保 信夫さん



研修に行ったのは、被災から6か月後でしたが、被災当時の現状があちこちに残っていてショックを受けたことを覚えています。いわて生協のお店では日頃の避難訓練が役に立ったとお話を聞いて、日頃の備えが大事だと感じました。また、大船渡では仮設住宅にも訪問しました。不自由な生活を送られている中にもみなさん前向きに生活されている姿を見て、何か少しでもお役に立てればと感じた研修でした。

コープあいち組合員 伊熊 憲世さん



震災後、現地の様子を見て「何かできないか」という思いから、周りのみんなに呼びかけて、3日後からお店の募金活動に取り組みました。また、「年月の経過で震災のことが薄れていってしまうのではないか」「支援ばかりではなく、忘れてはいけないことをきちんと見つめよう」という気持ちで、ダキシメルオモイ展を呼びかけたら賛同してくれる仲間がいて、コロナ禍で実現できませんでしたが準備をすすめることができました。

一人だとできないことも、いろいろな人とつながり、一緒にあれば実現できる。そう実感することができた10年間で、これからの担う若い世代のみなさんにも同じような経験をしてほしいと思っています。

## 2011

### 広域避難者への支援活動

#### 愛知県に避難された方に寄り添う

愛知県に避難された方にお米などの生活支援品をお届けしながら様子のおうかがいを行い県に報告するなど、行政・支援団体・NPOと連携しながら避難者支援にあたりました。

また、各地で開かれた避難者を困る交流会には、多くの組合員も参加しました。



### 商品の利用で応援する取り組み

#### 生産者と組合員がつながる

被災された生産者・メーカーを応援したいという思いから、宮城・岩手・福島の商品に「がんばろう日本」マークをつけて商品を案内し、利用を呼びかけています。さらに、2012年度から開始した「福島県JA伊達みらいの桃」の取り扱いでは、産地を実際に見学した組合員の声を商品案内に掲載するなどの取り組みも行いました。

桃から始まった福島県産品の取扱いは、ぶどうやりんご、お米、トマトジュースへと発展しています。



### お店で被災地とつながる

店舗での「絆フェア」では、鮮魚さんま企画として1尾あたり2円の支援募金に取り組んだほか、東北の産品や手しご品を販売する取り組みを行ってきました。

また「復興支援だんご」を店頭で焼き上げて販売し1本10円を支援カンパに充てる取り組みや、店長による支援活動報告会を行った店舗もありました。

「忘れない、伝える、続ける、つながる」をキーワードにした店舗での支援活動は、「少しでもいいから力になりたい」という組合員のあたたかな気持ちが集まる取り組みの一つでした。



## 今につながる思い

コープあいち 元副理事長 中野 正二さん



大震災から11年、当時の惨状からようやく日常を取り戻しつつあるようです。発災直後からすすめてきた支援、その後の相互交流やさまざまなボランティアの取り組みは大きな激励となり、同時に私たちの学びにもなりました。コープあいちの取り組みは①協同を広げる(被災地に寄り添い自立を支援)、②震災と支援活動を自地域の防災に生かす、③くらしと価値観の見直しにつなげるの3つの視点を大事にしてきました。

消費者自身がくらしのあり方を見つめなおすことも含めて、被災地(者)に思いを馳せて継続した支援ができればと思います。

## 2012

### 被災体験から学ぶ



現地を支える活動のほかに、被災者からお話を聞く、映画・アニメDVDを上映する、パネル展示をするなど、震災のことを忘れずこれらにつなげていく取り組みも組合員によって多く行われました。

その取り組みの中で、岩手県陸前高田市から愛知県に避難してこられた鶴島道子さんには、「自分の経験をこれらに役立ててほしい」という思いを込めて、ご自身の被災体験を組合員にお話いただきました。

震災を自分事に捉えてほしいという鶴島さんからのメッセージは、多くの組合員に受け止められ、その後の愛知での防災の取り組みにつながっています。



## 今につながる思い

鶴島 道子さん



今振り返ると、「あつという間」の10年でした。

震災後に陸前高田から愛知に避難して、逃げてきたという思いや不安が大きく、「誰ともつながらずに生きていく」と思っていたところで、支援を通していろいろな人とつながることができました。こういった人とのつながりは非常に宝物で生きていく糧になっていますし、みなさんに何か起きたときに「助けて」と言える人とのつながり・関係をつくってほしいと思っています。

そして、私も被災して初めて自分事になりましたが、より多くの組合員が災害を自分事として捉えるためにも、現地に行った人たちがもっとつながりながら、学んだこと・感じたことを地域の中で広げられるようになると大きな力になると思っています。

## 2014



## みなさんからの思いで被災地を支え続けました

### 東日本大震災 募金の取り組み

組合員からの募金総額は、**195,740,533円**  
10年間で

●東日本大震災義援金募金 **148,592,048円** (災害緊急支援募金 70万を含む)

#### ●復興支援活動募金

|                    |                    |
|--------------------|--------------------|
| 日本生協連を通じて被災地へ      | 1,501,000円         |
| くらし・地域復興応援募金への寄付   | 19,500,000円        |
| コミュニティづくりや地域活動への支援 | 7,447,897円         |
| 陸前高田市「うごく七夕まつり」支援  | 1,850,000円         |
| いわて生協を通じた支援        | 3,600,200円         |
| 愛知県内避難者への支援        | 12,255,690円        |
| 合計                 | <b>46,154,787円</b> |

●募金の残金は21年度以降も県内被災者の支援などに継続して活用していきます。

## 理事長あいさつ

生活協同組合コープあいち 理事長 森 政広



東日本大震災は、コープあいち設立2年目に発生しました。発災直後から、現地にタオルを送ろうと組合員に呼びかけ、2週間で23万本のタオルを集め、現地に届けました。組合員からはタオルと一緒にメッセージも付けられ、組合員の思いを届けることができました。現地には、当時の全役員、全部長が現地で支援活動に参加しました。参加者が共通して実感したことは、「もし愛知県で災害が起こったとき、東北の生協のような地域にお役立ちができるのか？」との思いでした。加入率の高い東北の生協は、災害物資のお届けや避難所の運営を先頭に立ってすすめていました。コープあいちの加入率ではとてもお役に立つことができない。もっと生協をお知らせし組合員を増やそうと奮起しました。

組合員も、福島の桃をはじめ、現地の商品を利用することで支援しようと、呼び掛けてもらいました。原発事故で商品の安全性が問われることもありましたが、東海コープ事業連合の食品検査室が昼夜を問わず検査に奮闘し、安全性を組合員にお知らせしてきました。このように、組合員、職員、行政、地域の団体がともに力を出し合う支援活動を行うことができました。その後、行政や地域の団体とは、災害支援協定の締結や防災訓練、学習会などにつながりました。

愛知県でも、いつ災害が襲ってくるかわかりません。地球温暖化で、震災だけでなく、台風や大雨による10年に1度といわれる災害が毎年起こっています。そして、南海トラフ大地震は必ずやってくるといわれています。東日本大震災の教訓を生かし、組合員、地域のみなさんとともに、引き続き普段の備え、防災を強化していく決意です。

# 2020

# 2021

## 復興支援活動から今につながる

「普段のくらしの中で備えを…」  
防災・減災の取り組みを継続しています

### ローリングストック

普段食べ慣れた食材や使い慣れた生活用品をストックし、普段のくらしの中で使って補充を繰り返す「ローリングストック」を呼びかけています。ぜひ、みなさんも、ご自宅の備えを確認しましょう！



### 万が一に備えるために

震災後から、各地でコープサポーターによる「ぼうさいカフェ」を継続して実施しています。

「避難場所はどこ？どうやって行くの？」など、実際に災害が起こったときどうするのか、何ができるのかを参加者同士で考えあいます。



### 「もしもに備えて」

- 食料・生活用品は3～7日分を備蓄しておきましょう
- 最寄りの避難所を確認しておきましょう
- 家族で災害時に集まる場所を相談しておきましょう
- テレビ・ラジオ・SNSを活用して生活情報を集めましょう
- 地域の防災訓練に参加してみましょう

毎年全国各地でおこる自然災害を“自分事、ととらえて、支援活動や身の回りの防災に備える取り組みが行われています。

近年全国で頻発する自然災害支援にも、迅速に取り組んできました



2017 福井県の豪雪被害 職員派遣(26名)

2016 鳥取県中部地震 災害支援募金 1,339,838円

2017 九州北部災害募金 7,625,531円

2016 熊本地震緊急募金 40,362,133円 福祉職員派遣

2018 北海道胆振東部 地震災害緊急支援募金 6,558,319円

2016 北海道・岩手県 台風被害募金 2,896,884円

2019 10月台風15号 千葉県災害義援金 3,623,117円



岡山県倉敷市真備町の様子

2018

7月西日本豪雨 緊急支援募金 34,441,582円 職員派遣(7名)

2019

10月台風19号被害 緊急支援募金 31,690,755円 職員派遣

2020

7月豪雨 災害支援募金 (九州など9県) 16,953,975円

2021

8月大雨 災害支援募金 (九州・長野・広島) 8,298,613円

### 夜の森の桜が

「愛知にいても、忘れないよ」

愛知と福島をつないでいます

全国有数の桜の名所である、福島県富岡町夜の森地区。春は桜並木が美しく、多くの人でにぎわっていたそうです。震災後、原発事故の影響で警戒区域指定を受け、全町民が町外避難を余儀なくされました(現在は一部解除)。



そのような中、始まった夜の森さくらプロジェクトをコープあいちも応援。

「愛知にいても、震災を、原発事故を忘れないよ」そんなメッセージを込めて、桜を事業所敷地内に植樹しました。桜はすくすくと成長中。

この桜を囲みながら福島のみなさんと語る日が来ることを願って…。

